

聴覚障害者
山本 昭吾さん
(大淵)



わかりやすい表示がないと苦労
視覚情報を頼りにするので、大きな文字などわかりやすい表示がないと大変です。また、買い物をして、レジで合計金額の表示がなく困ったこともよくありました。歩道のないところで、後ろから車が来ると怖いことも…。大切な情報の掲示が、街中でもあるといいですね。

視覚障害者
鈴木 利一さん
(伝法)



音声ガイドがあると心強い
歩道のわずかな段差やくぼみでも、つまづく原因になってしまいます。施設などで音声ガイドがあると心強く感じます。私たち視覚障害者は、白いつえを高く上げて介助を求めるとサインを出すことがあります。そのとき、声をかけたり手を引いたりしてくれたらうれしいですね。

車いす利用者
市野 隆さん
(松岡)



歩道の自転車が障害に
同じ車いすの利用者でも、障害の度合いによって使いやすさが異なります。障害者用のトイレがあっても、ドアが重かったり、スロープが急で上れなかったりするときなどがあります。段差はもちろんですが、歩道に自転車が置かれていると困ってしまいます。



▶ユニバーサルデザイン点検ワークショップより

だれにも優しく だれもが優しく

ユニバーサルデザイン

性別、年齢、国籍、身体的な特徴など、私たちが住む社会にはいろいろな人が暮らしています。今回の特集では、すべての人が利用しやすいように、物やサービスなどに配慮した「ユニバーサルデザイン」について紹介します。ユニバーサルデザインを通じ、だれもが安全で快適に暮らせる街について一緒に考えてみませんか。

佐野 マリサさん
(柳島)



案内表示にふりがなを
ペルーから富士市に来て十三
年になりますが、初めは、駅や
施設の出入り口を探したり、お
金をおろしたりするときなどあ
らゆる場面で苦労しました。
案内表示などローマ字のふり
がながちよっとでも書いてある
とほっとします。絵を使った看
板はわかりやすいですね。

加藤 直樹さん、
典子さん
(依田橋町)



子ども連れでも優しい場所に
ベビーカーで出かけると、段
差につまずいたり、溝に車輪が
挟まったりすることがあります。
通路や駐車場など通れる幅があ
るか気になります。子ども連れ
がよく行くところには、おむつ
をかえる台があるトイレや、子
どもの高さに合った水飲み場な
どがあるとうれしいですね。

石川 たまゑさん
(松岡)



街中で一休みできるところを
年をとってくると足腰が弱く
なり、手すりなど体を支えるも
のがあると楽です。バスを使う
機会が多いのですが、床が低い
バスは乗りおりしやすくしてい
いですね。街中へ買い物に出た
ときなど、ベンチで一休みでき
るようなところがあるとありが
たいですね。

ユニバーサルデザインとは？

「ユニバーサル」とは、「あらゆる、
すべての」という意味。「ユニバーサ
ルデザイン」とは、「すべての人のた
めのデザイン（構想・計画）」という
ことです。年齢、性別、身体、国籍な
ど、人々が持つさまざまな特性や違い
を越えて、初めから、できるだけすべ
ての人が利用しやすい、すべての人に
配慮した環境、建物、施設、製品など
のデザインをしていこうとする考え方
です。

「バリアフリー」を進めた

「ユニバーサルデザイン」

「バリアフリー」は、障害者や高齢
者に対して、特別な設備や方法で、生
活していく上でのバリア（障壁、障害、
不便）を取り除いていこうとする考え
方です。

「ユニバーサルデザイン」は、施設
や物をつくる時、初めからできるだ
けすべての人が利用できるようにして
いこうとする考え方です。つまり、最
初からバリアが取り除かれていること
を目指しています。

その意味で「ユニバーサルデザイン」
とは、特定の人々を意識した特別の対
応を図るのではなく、「バリアフリー」
をさらに進めた考えと言えます。

なぜ、ユニバーサルデザイン が必要？

年をとり、若いころは見えていた小
さい文字が読みづらくなったり、小さ
な音が聞き取りづらくなったりします。
女性が妊娠して、足元が見えづらくな
ったり、小さな子どもと一緒に出かけ
たりしたときなど、階段の上り下りが
大変に感じることでしょう。また、あ
るときけがをして松葉づえをついたり、
事故や病気で車いすの生活になったり
することももあるかもしれません。

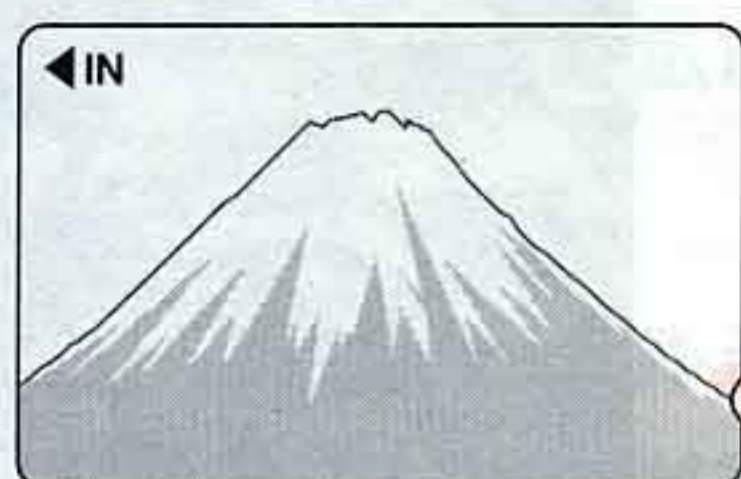
このように個人の特性に変化がある
中、その状況ごとに合う物を変えてい
くことは、時間も費用もかかってしま
います。初めからいろいろな使い手を
考えていけば、どんな特性を持ってい
ても柔軟に対応できるようにあります。
急速に高齢化や人口減少が進む現在、
物やサービスにおいて、高齢者や障害
者などを特別扱いせず、自立と社会参
加を促進するためにユニバーサルデザ
インの考えが求められてきているので
す。

☆身近なユニバーサルデザインの例

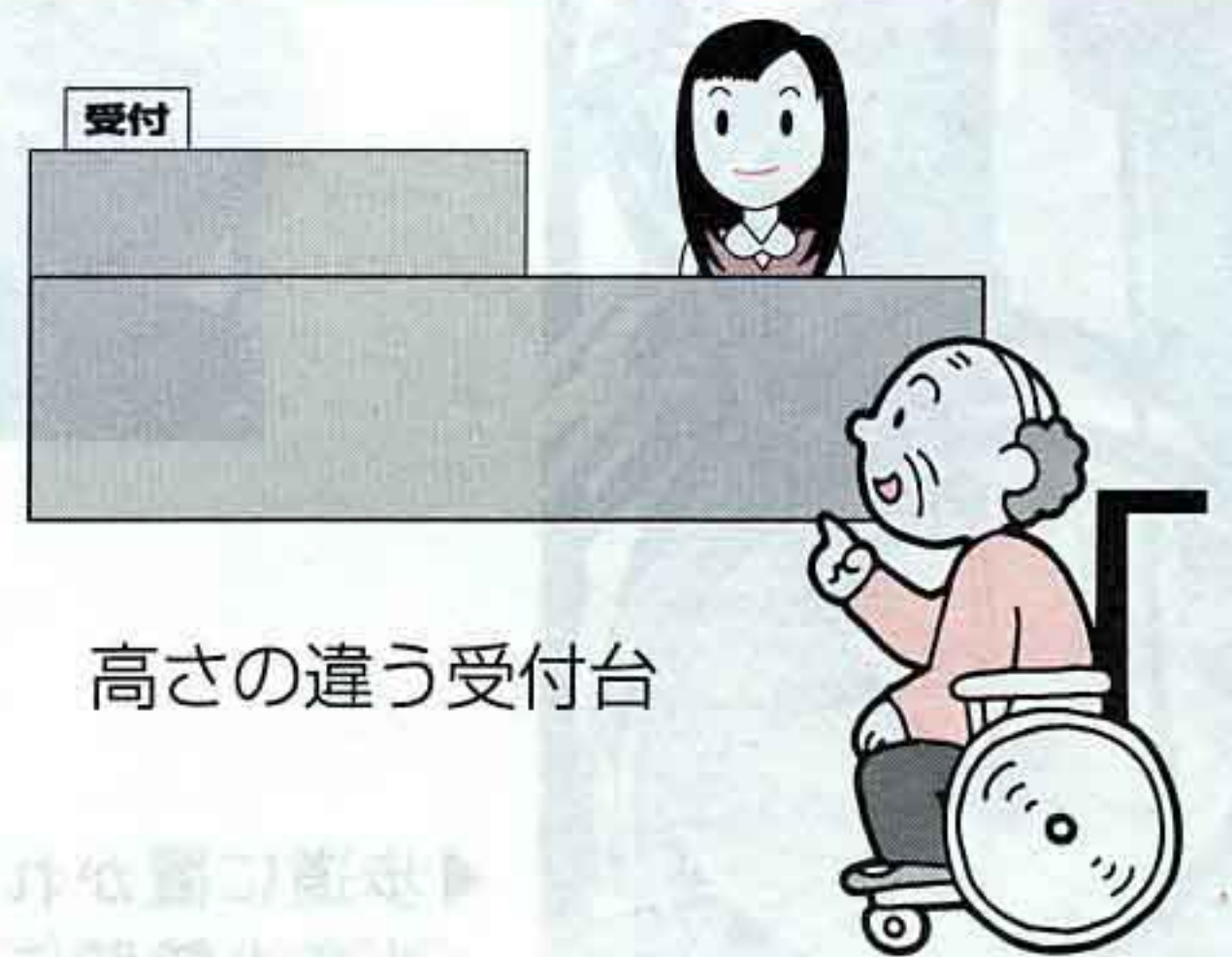
電話、キーボードな
どの真ん中となる5
の数字についた突起



▶シャンプーボトル
の凸凹



◀テレホンカードの切り欠き



高さの違う受付台

街の中の ユニバーサル デザイン

富士市男女共同参画室では、ユニバーサルデザインを男女共同参画プランの主要事業の一つとして推進しています。

一月十二日・十九日に行われた同室主催のユニバーサルデザイン点検ワークショップに、広報ふじの情報通信員「まちかどネットワークカー」の二人に参加していただきました。

市役所周辺や吉原商店街などでの、高齢者、半身まひの疑似体験を通じ、ユニバーサルデザインについてレポートします。



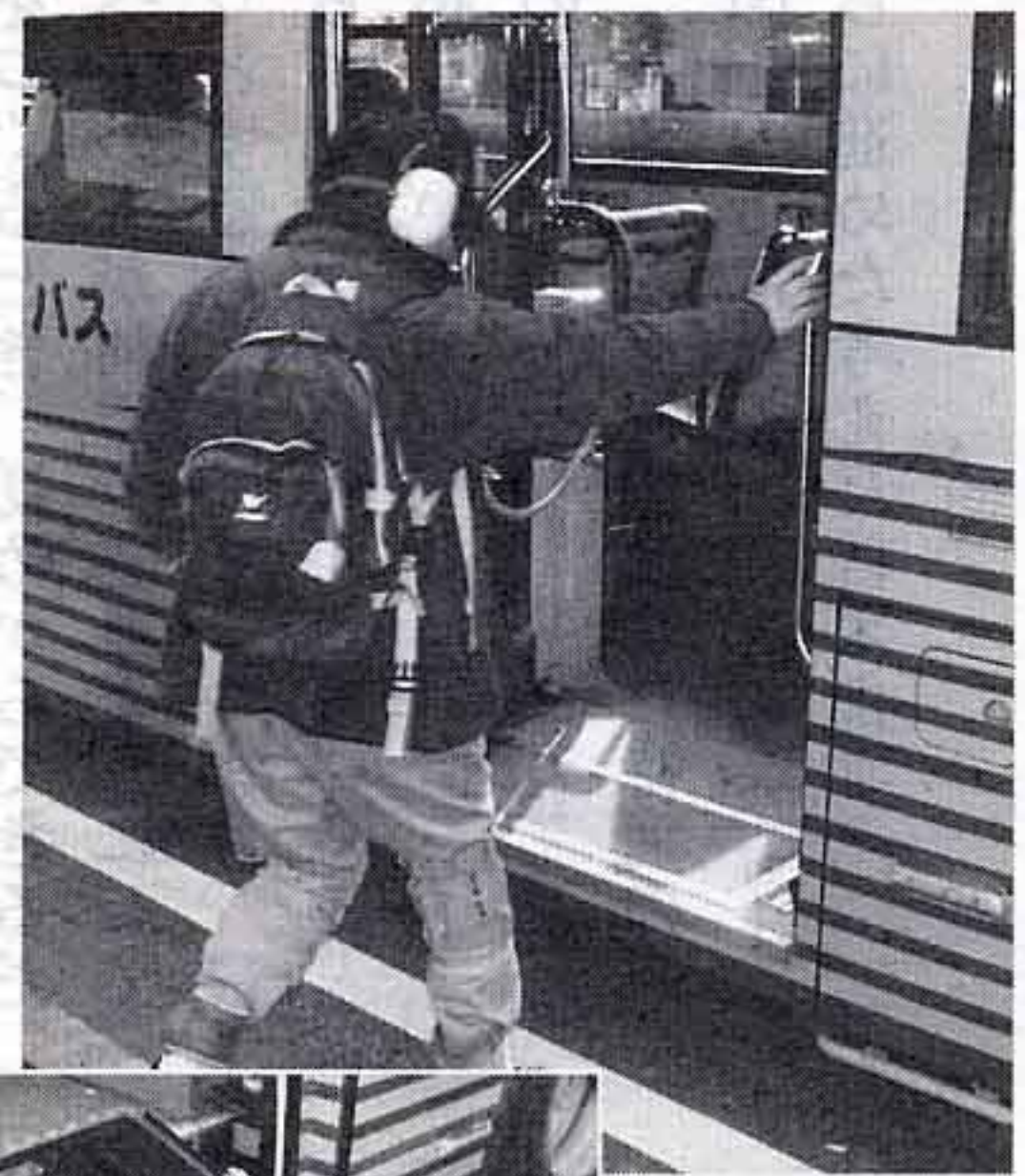
まちかどネットワークカー
志水 文子さん（左・柚木 ふうみ）
上杉 明美さん（右・森島）



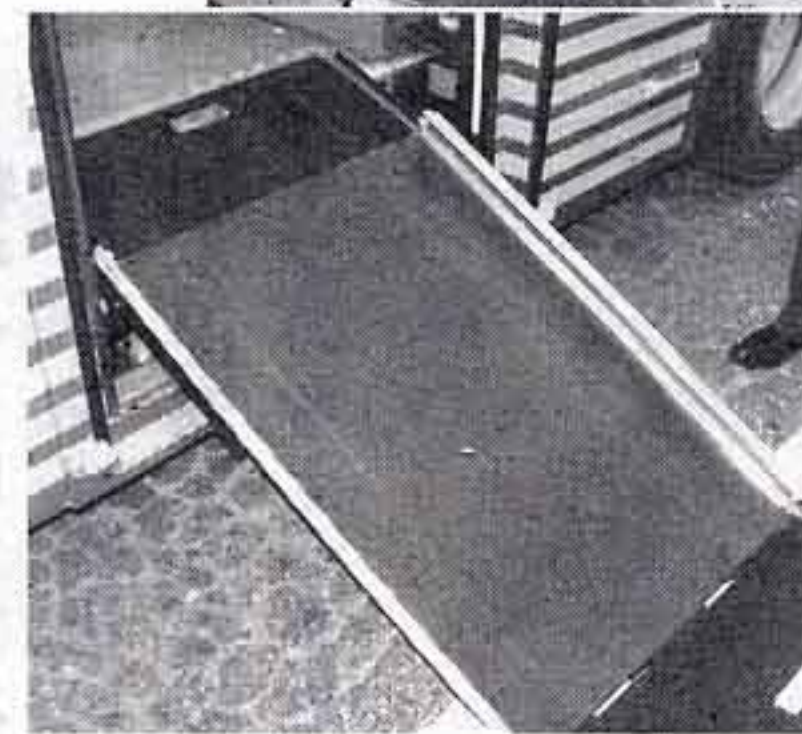
▲半身まひ体験では、スロープをおりるだけでも大変なことを実感



▲音声案内がついている銀行の自動預金支払機



◀乗りおりしやすい「ノンステップバス」



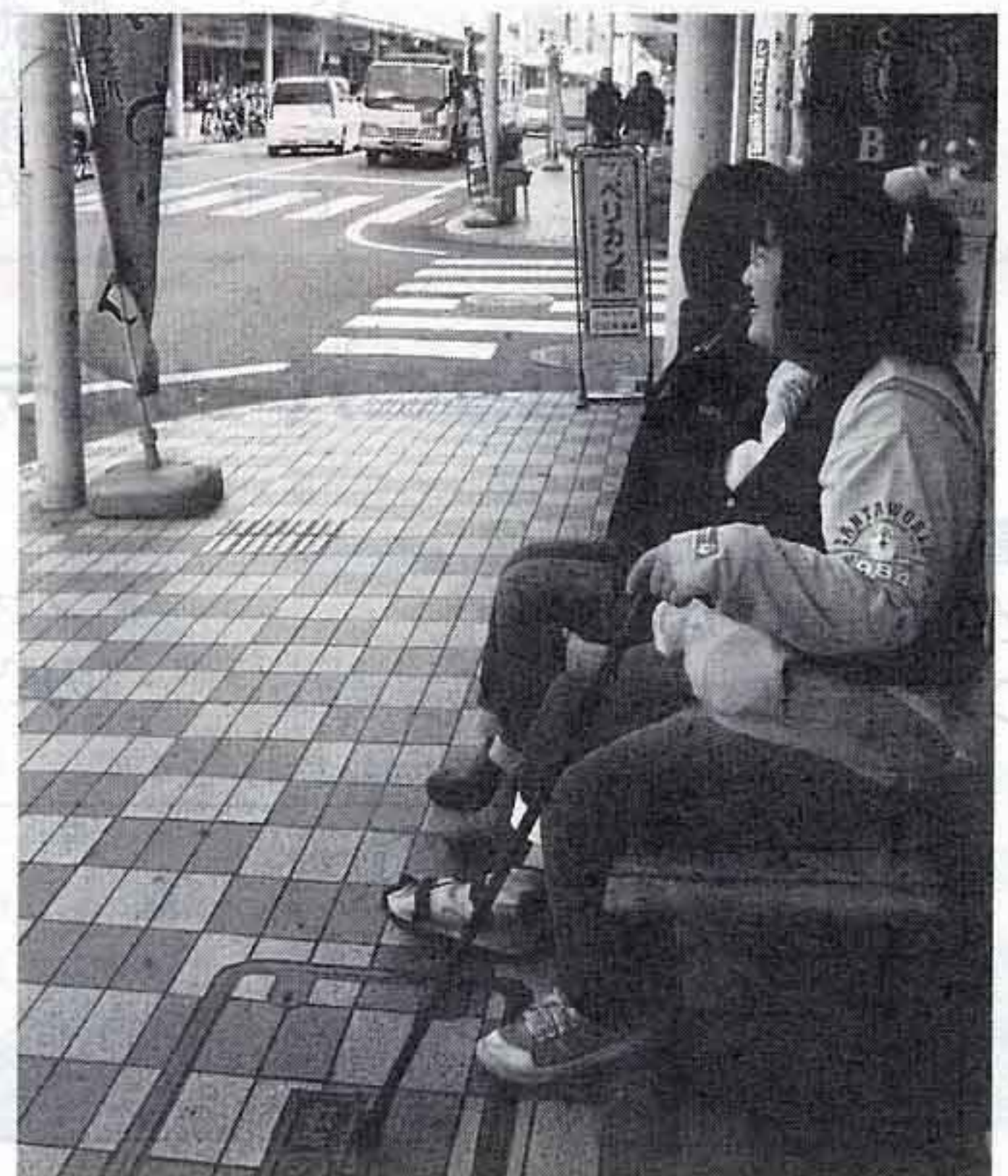
◀車いす用のスロープ



◀歩道に置かれた自転車は大きな障壁に



◀自動販売機の商品を取り出すのも苦労しました



◀お店の前のベンチでほっと一息



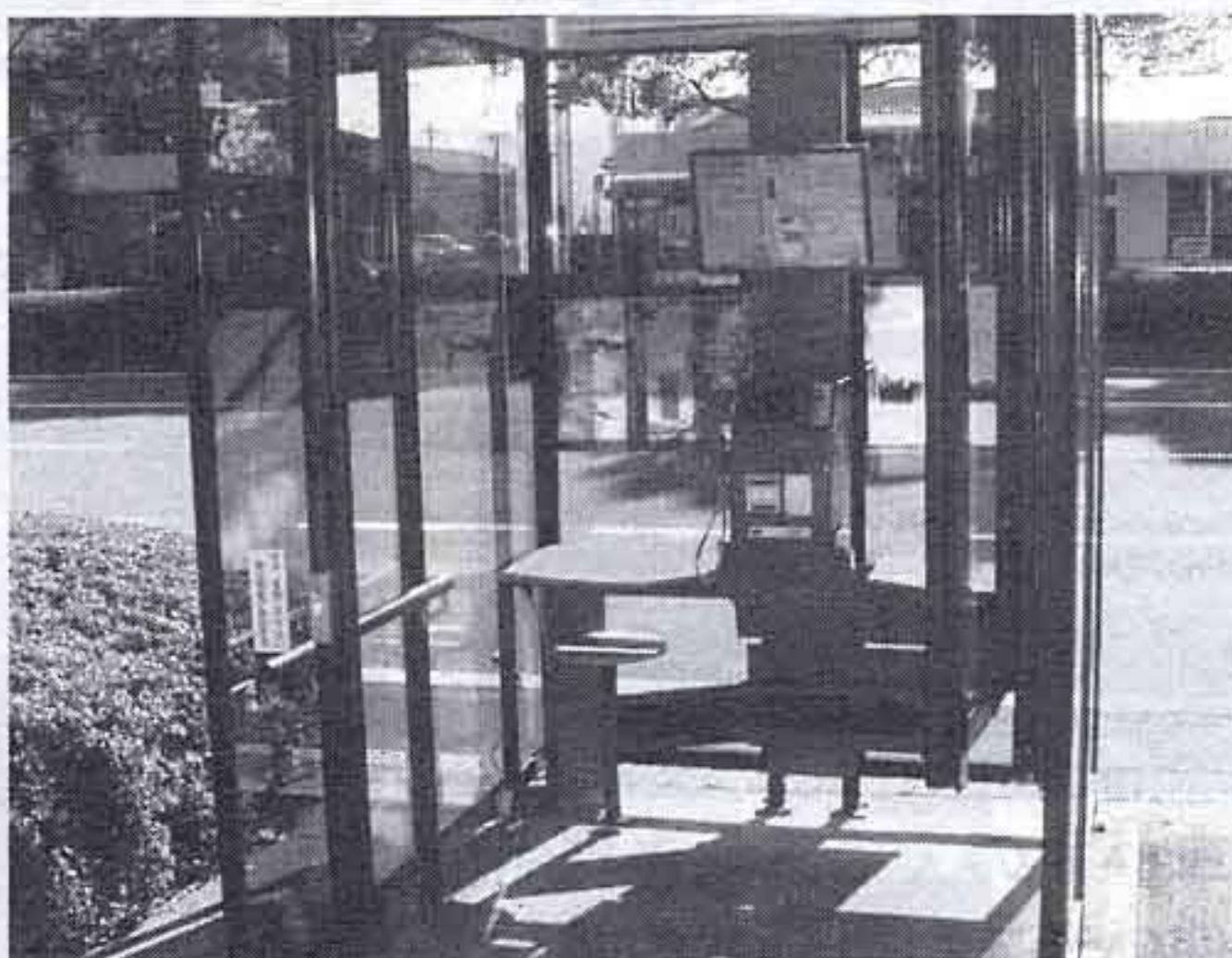
ユニバーサルデザイン
アドバイザー
大河内 昭宏さん

ユニバーサルデザインは、どのような状態でも社会の中で人として普通に生きる「ノーマライゼーション」社会の実現が目的。そのため、障害者、高齢者、男女など当事者の視点で考えることが大切になります。それぞれの目的や最優先にすべきことは何かを踏まえ、人権の尊重を基本に、できるだけ同じ場、同じ物、同じことを、同じようにできることを考えていくことが、ユニバーサルデザインにつながります。

ユニバーサルデザインは人権の尊重が基本に



▶すき間を通り抜けるにも苦労しました



▶車いすでも入れる自動ドアの電話ボックス

▶体験後に点検マップを作成。対比がはっきりした見やすい色の使い方なども話題に上りました。



特集 ユニバーサルデザイン

私たちの心遣いで解決できることも

擬似体験を通じ、街には自分で回避できない多くの危険があることや、声をかけるなどの私たちの少しの気遣いで、何の問題でもなくなることもあることに気づきました。だれもが幸せに暮らせるまちづくりには、私たちができることは何かを考えるきっかけになりました。

志水文子さん



ユニバーサルデザインにつながるちょっとした工夫や手助けをすることで、使いやすさも大きく違います。みんながこの意識を持てたら、だれもが外へ出ていけるのではないかと感じました。この考えがもっと草の根で広がってほしいと思います。

上杉明美さん



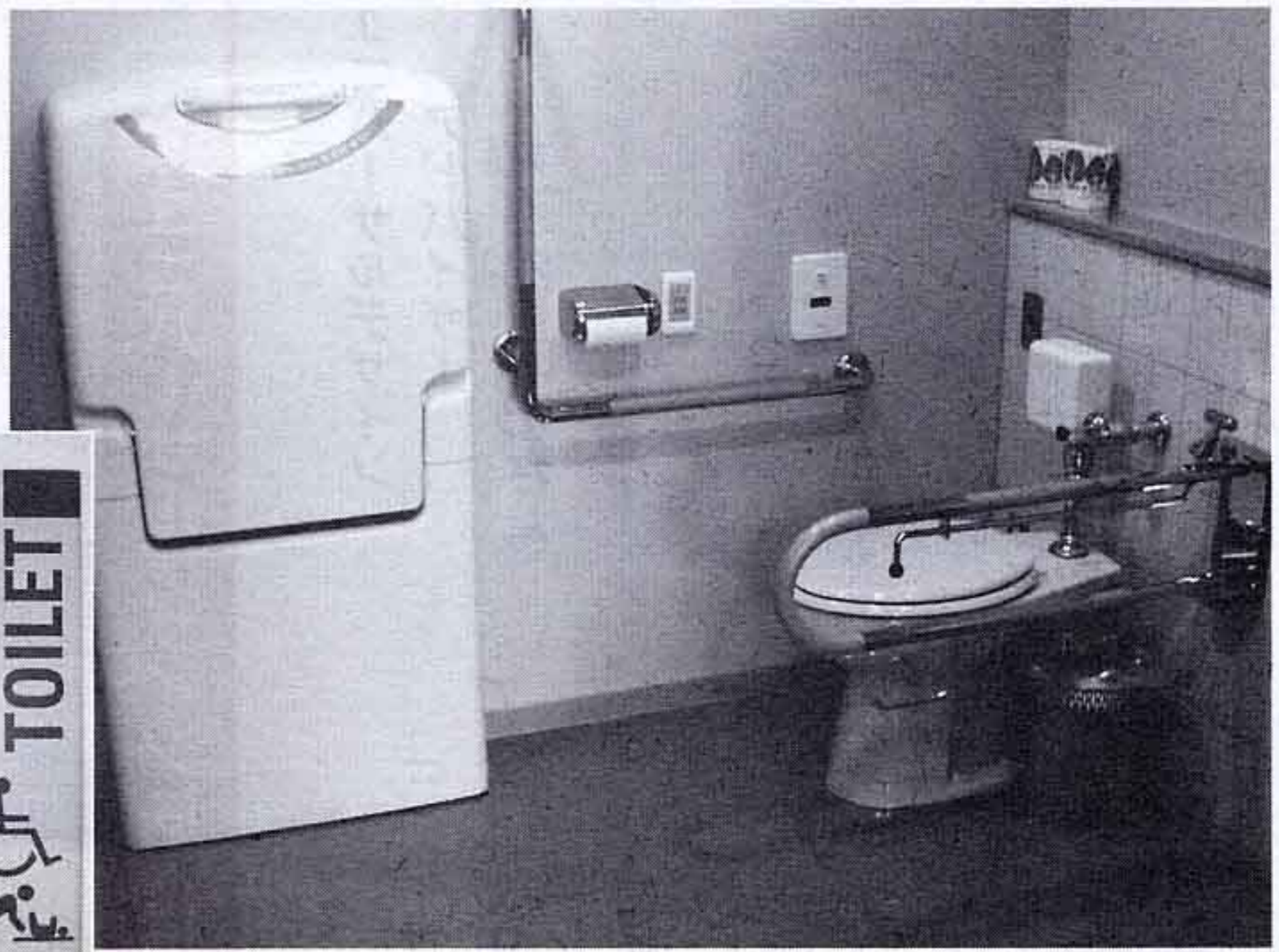
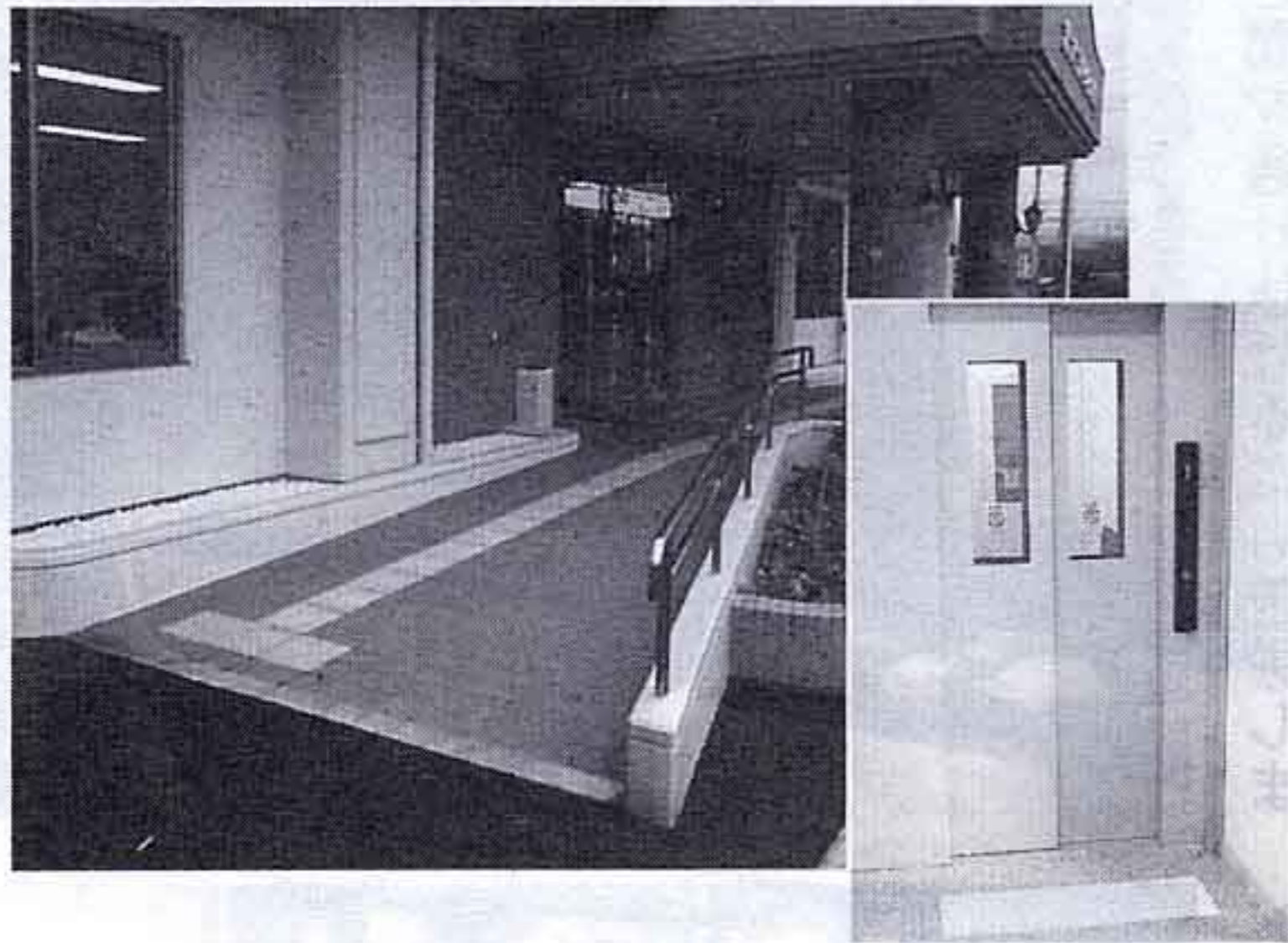
ユニバーサルデザインの考えが広まってほしい

ワークショップに参加して



ユニバーサルデザイン点検ワークショップについてのお問い合わせは… 男女共同参画室 ☎55-2724

▼スロープ、手すりなどを設置した
玄関とエレベーター
(青葉台公民館)



▲車いすの人や高齢者にも
使いやすい昇降式の調理
台 (富士駅南公民館)



▲消防防災庁舎に設けられた
ファミリートイレ。障害者
や高齢者、おむつかえの親
子などだれもが使いやすい
広いトイレです。
また、看板も見やすいよう
に大きな案内表示になって
います

◀完成間近の「フィランセ」。
音声誘導システム、文字表示
システムなどを導入します

市のユニバーサルデザインへの 取り組み

市では、公共施設で、ユニバーサルデザインを進めています。ことしの春に開館する「(仮称)総合福祉センター・フィランセ」では、随所にユニバーサルデザインを採用。子どもからお年寄り、障害者のだれもが気軽にストレスなく利用できるような施設となります。また、高齢社会を迎え、市営住宅の建設事業で、段差の解消やスロープの設置、中層住宅へのエレベーター設置など、人に優しい住宅づくりを進めています。さらに、庁舎西側エレベーターの改良など市庁舎内部の改善にも取り組んでいます。

このほか、男女共同参画プランでの推進活動の取り組みをはじめ、ごらんの広報ふじでは、「暮らしのたより」の文字を大きくするなどしています。



昨年夏に行われた市
庁舎ユニバーサルデ
ザイン化点検

進めよう! 「心」のユニバーサルデザイン

だれもが快適に暮らし、自由に参加できる街にするためには、できるだけ誰もが満足するデザインとすることが大切です。しかし、すべての人が満足を得ることは大変難しいのも事実です。費用も時間も必要になります。可能な限り、利用者にとって使いやすいものにし、足りない部分については、道具や技術による支援、そして、周りの人の「心のユニバーサルデザイン」が必要です。

「心のユニバーサルデザイン」は、自分以外の人のことを思いやり、ちょっとした気配りをする事。歩道に自転車を放置しない、車いすマークのついている駐車場に車をとめない、段差のあるところなどで、困っている障害者やお年寄りに声をかけたり、手をかしたりすることなど、私たちの心の持ち方と少しの勇気が、温かなユニバーサルデザインとなるのです。

お互いの個性を大切にし、それを思いやる気持ちが根底になれば、本当のユニバーサルデザインは実現しません。だれにも優しい、だれもが優しい社会を目指して、まずは心のユニバーサルデザインから始めてみませんか。

特 集 ユニバーサル
集 デザイン